

- 18日に日経平均株価はおよそ3年4カ月ぶりに17,000円を、NYダウはおよそ3年1カ月ぶりに20,000ドルを割り込んだ。米国の景気悪化が長期化するとの見方が強まったとみられる。
- VIX指数はリーマン・ショック時に近い水準も、日経平均VIは当時より低い水準。TOPIXの上昇などもあり、日本銀行によるETFの買入策が国内株式市場を一定程度下支えする効果が期待される。

NYダウが3年ぶりに20,000ドルの大台を割り込み

18日の国内株式市場では、日経平均株価が前日比-284.98円の16,726.55円で終了し、終値としては2016年11月9日以来、およそ3年4カ月ぶりに17,000円を割り込みました。今回の下落で1月20日に付けた過去1年間の高値からの下落率は30.5%となりました。

米国株式市場では、ダウ・ジョーンズ工業株価平均（NYダウ）が前日比-1,338.46ドルの19,898.92ドルで終了し、終値としては2017年2月2日以来、およそ3年1カ月ぶりに20,000ドルの大台を割り込みました。前日比の下落率は-6.3%で、取引時間中には一時、-10.9%まで下落率を拡大する場面もありました。今回の下落で2月12日に付けた過去最高値からの下落率は32.7%となりました。

18日にトランプ政権は新型コロナウイルスの感染拡大による経済への悪影響を和らげるため、個人への現金給付を含めた1兆米ドルもの経済対策を発表しました。しかし、米国の景気悪化が長期化するとの見方が強まったとみられ、米国株式市場は一時取引停止を交え、全面安の展開でした。

日経平均VIはリーマン・ショックと比較すれば低い水準に

足もとの米国株式市場は急落と急騰を繰り返しつつ、下値を切り下げるといって、投資家の不安心理が市場を支配する状況となっています。S&P500種指数のオプションから算出された変動性（ボラティリティ）であるVIX指数は18日に76.45と、2008年リーマン・ショック時に近い水準が続いています。

国内株式市場では、日経平均株価の1カ月先のボラティリティを示す日経平均ボラティリティ・インデックス（VI）は18日に56.12と前日から小幅に低下しました。日経平均VIはリーマン・ショック時には90を超える水準まで上昇しましたが、足もとはこれと比較すれば低い水準となっています。

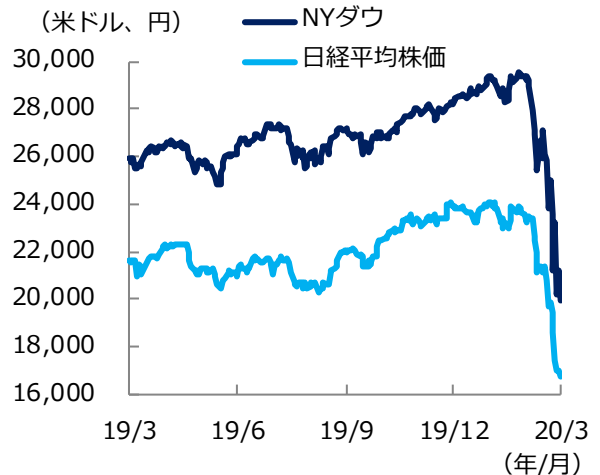
18日に日経平均株価は値がさ株主導で下落しましたが、東証株価指数（TOPIX）は化学や食料品といった業種を中心に上昇しました。

こうした米国に比べれば相対的に低いボラティリティやTOPIXの上昇などは日本銀行によるETFの買入策の効果を表していると思われる、今後の国内株式市場を一定程度下支えする効果が期待されます。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

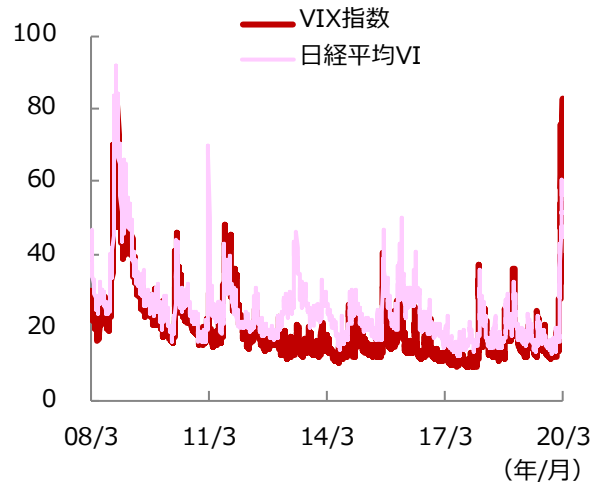
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

日米株式市場の推移



※期間：2019年3月18日～2020年3月18日（日次）

VIXと日経平均VIの推移



※期間：2008年3月18日～2020年3月18日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

● 「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体および「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

● ダウ・ジョーンズ工業株価平均は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、ダウ・ジョーンズ工業株価平均のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

● VIX指数はシカゴ・オプション取引所が算出する指数です。

● 東証株価指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。

